

黒埼との合併によせて...

1月1日に新潟市と黒埼町が合併しました。合併への思いや、新しい新潟市に望むことなどを、市民の皆さんから語っていただきました。



小泉翠さん (大野町)

お茶、詩吟、流行歌に合わせて踊る新民謡など、公民館を利用して、週に3日くらい活動しています。体を動かしながら、若い人々とコミュニケーションをとるのが私の1番の楽しみ。すでにメンバーの中に、新潟市から参加している人もいますよ。これまで肩身が狭い思いをしていたのが、合併によって、大きな顔ができますね(笑)。



佐藤久一郎さん (鳥屋野2)

約30年前、チューリップの切り花栽培を始めようと思い、知識や技術を身に付けるために、切り花の生産が盛んでハウス栽培の技術が進んでいた黒埼によく見学に行きました。

生産を始めてからは、知人の紹介などもあり、黒埼町農協(現在のJA越後中央)の生産者の一員として加えてもらい現在に至っています。

わたしの生活の上で黒埼は、よその町という感覚はありませんでした。合併により魅力ある園芸産地が新潟市に加わったことは、生産者のひとりとしてうれしく思っています。

私は自分でもプレーするくらいサッカーが大好きで、来年6月のW杯の開催を心待ちにしています。新潟での試合が全世界に流れるのは本当にすごいことですね。今回の合併は楽しみな反面、黒埼の名前が無くなってしまいうる気がして、正直寂しい気持ちもあるんです。でも、W杯の時には、世界中からサポーターがやって来ると思うので、「また新潟に行きたいな」と感じてもらえるような、魅力あふれるまちづくりを期待しています。それに、大きな動物園や遊園地など、子どもと遊びに行ける場所も作ってほしいですね。



北山桐子さん (大野町)

小新大通団地に住んで8年になります。昔から住んでいる人の話では、こちら辺は自動車以外の交通手段は廃止になった電鉄線しかなく、当時の焼鮎駅まで歩いたそうです。

しかし、ここ数年の間に流通センターを中心に目覚ましく発展し、スーパーなどの大型店が進出するなど、まちの様子も一変しました。

わが家から一番近い病院は、寺地の済生会第二病院であり、食料品の買い物も黒埼のスーパーなどを利用しています。

合併する前から、わが家にとって黒埼は、日常生活でとても密接な関係にありましたね。



渡辺坦さん (小新)

人口

人口	世帯数
527,271人	203,239世帯

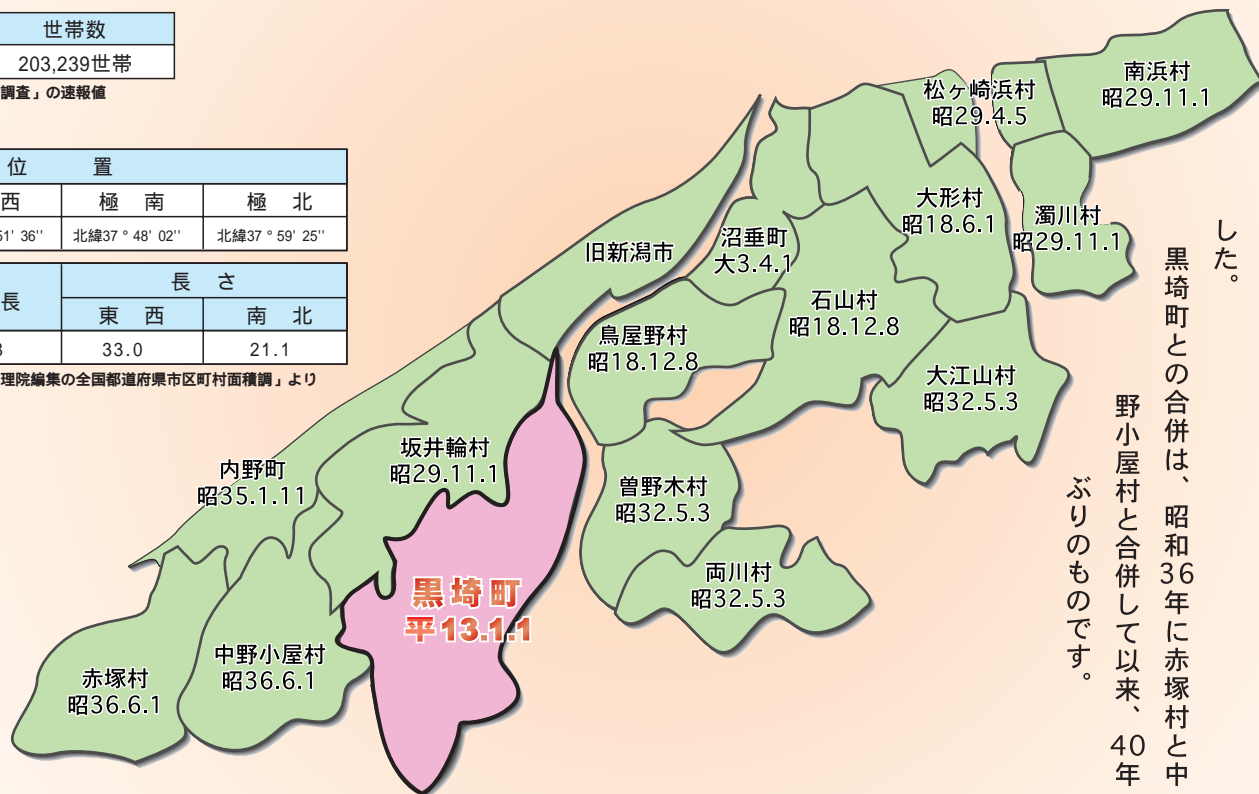
平成12年10月1日実施「国勢調査」の速報値

位置、面積など

位置			
極 東	極 西	極 南	極 北
東経139° 14' 08"	東経138° 51' 36"	北緯37° 48' 02"	北緯37° 59' 25"

面積	周囲長	長さ	
		東 西	南 北
231.91	132.8	33.0	21.1

平成12年10月1日付「国土地理院編集の全国都道府県市区町村面積調」より



新潟市の合併の歴史

新潟市は、明治22年4月1日に、関屋村古新田との合併により市制を施行。以来、9回・3町12村と合併を重ね、現在の市域となりました。

黒埼町との合併は、昭和36年に赤塚村と中野小屋村と合併して以来、40年ぶりのものです。

黒埼中学校に赴任して7年になります。寺尾から車で20分ほどで通勤できるので、市との区別は感じたことがなかったですね。これからは、仕事を休まなくても近くの支所で住民票などが取れるのでとても助かります。大いに利用しようと思います。生徒たちは、合併に関してまだイメージできないうちです。でも、昨年の総合体育大会で初めて市の大会に参加しましたし、少しずつ実感がわいてくるのではないのでしょうか。市内のほかの中学校に負けずいろいろな面で活躍してほしいと願っています。



五十嵐理恵子さん (寺尾上2)



白倉裕子さん (ときめき西4)

結婚して住まいを探すとき、交通の便のよさと、若い世代の住人が多くて、これから発展していく新しい町という感じがして「ときめき西」を選びました。

実家は浦山で、勤務先が市役所の近くなんです。そのせいか、ショッピングは古町や万代に行くことが多いですね。日用品も仕事帰りに買うことが多いので、小針とか青山とかで...

もともと新潟市に隣接していたせいか、合併したからといって特に生活が変わったって感じはないんです。ただ、住所を書くのが楽になったかな。

近所に住む友だちの中には、保育園の選択肢が広がって、仕事と子育てを両立しやすくなりそうと、喜んでる人もいますよ。

昔から大野商店街で、文房具店を開いており、私が3代目です。

どこの商店街も同じだと思いますが、消費動向の変化や大型店の進出もあって、状況は厳しいですね。だから、合併がひとつの起爆剤になってくれればと思っています。商店街の活性化に向けた、魅力的な市の助成制度もあるようですし...

また、これからW杯や万代島再開事業などがあり、世界中から多くの方が新潟市を訪れます。

このビッグイベントは、私たちにとっても大きな魅力。各商店街とともに、アイデアを出し合い、にぎわい回復につなげたいと思っています。



吉田達英さん (大野町)



野上ヤエさん (曾川)

昔この辺り(曾川)は一面の田んぼで、医者と産婆と寺と酒屋くらいしかなかったから、苗、農具、海の魚、野菜着、下駄など生活に必要なものすべてを、渡し舟に乗って、大野町へ買いに行っていました。冠婚葬祭用の着物を作ったり、団子の粉を引いてもらったり、大工や髪結いさんに来てもらったり。何をやるにしても大野町の商店街がなければ用事が足りなかったんです。合併する前から、大野町との結び付きは深かったんですよ。大きな店がたくさんできて便利になったけど、今でも、大野町のなじみの店に「いたかね」と顔を出すとほっとしますね。